

「土に挑む男」

愛知県豊橋市天伯原開拓記念像

愛知県豊橋市は県南東部に位置し、南は太平洋に面している。東三河地方の経済・交通の中心で、人口は約37万人。市内を流れる豊川からの用水と温暖な気候に恵まれ、農畜産業が盛んに行われている。戦後、15の地区で開拓事業が進められた。

同市南部の^{てんぱくちよう}天伯町天伯原地区は広大な台地で、1945（昭和20）年、復員軍人・戦災者ら200戸余りが入植した。明治時代から長い間、陸軍の演習地であったため、軍馬や兵隊に踏み固められた土地だった。機械がない開拓当初は、^{くわ}鍬による手作業で苦勞して開墾が行われた。加えて、土壌は強酸性で栄養分が乏しく、水利条件も悪かった。

入植者は、48年に天伯原開拓農協を設立して解決にあたった。営農は、麦・サツマイモの栽培から、野菜作へと移行していった。68年に豊川用水が完成し、通水により水不足は解消された。

現在、キャベツやトマトなど、露地や施設での野菜栽培が盛んである。

同町豊栄の天伯山神社の敷地内に、「土に挑む男」の像が建っている。同開拓農協の組合員一同が、開拓30周年を記念して、75年12月に建立したもの。鍬で荒野を切り開いた開拓者の姿を表している。台座の裏面には、碑文と入植者の氏名が刻まれている。

碑文の中段には、「昭和二十年十一月五日旧陸軍演習場であったこの天伯原の荒野に、自作農創設の夢を抱いた式百余戸の開拓者が入植した 爾来風雪三十年 無から有を生み出す開拓農民の筆舌につくせぬ労苦は、汗と涙の尊い軌跡と足らざるを補い合う協同の成果に 美しい同志愛の事績を遺し、あらゆる艱難辛苦に耐えた者のみが知る喜びと緑なす沃野によって報われた」と記されている。

同神社の境内には「豊橋市開拓記念館」もある。開拓20周年を記念して80年10月に建設された。館内には、開拓当時の農耕具や生活用具、写真などが収められている。

天伯原開拓記念像 「土に挑む男」

- ①調査日 2021年4月19日
- ②所在 豊橋市天伯町
- ③地区の沿革 昭和20年11月に解放された旧陸軍演習場に二百余戸が入植した。
- ④設置年月日 昭和50年12月
- ⑤設置者 旧天伯原開拓農業協同組合 組合員
- ⑥碑名 開拓30周年記念碑
- ⑦碑文(表面) 土に挑む男
- ⑧碑文(裏面) 昭和二十年八月十五日、長く苦しかった太平洋戦争が終わったとき、国土と人心は荒れ果て、食糧不足もまたその極みにあった よって 国は食糧増産と人口収容力の拡大をめざし、緊急開拓事業実施要領を施行した / かくして、昭和二十年十一月五日旧陸軍演習場であったこの天伯原の荒野に、自作農創設の夢を抱いた二百余戸の開拓者が入植した/爾来風雪三十年 無から有を生み出す開拓農民の筆舌につくせぬ苦労は、汗と涙の尊い軌跡と足らざるを補い合う協同の成果に 美しい同志愛の事績を遺し、あらゆる艱難辛苦に耐えた者のみが知る喜びと縁なす沃野によって報われた / この不撓不屈の開拓精神と強固な団結の陰にいまは亡き三十数名の先人の遺風も忘れてはならない / 我々はここに開拓三十年を記念して、その由来を後世に伝えるためこの像を建てる
昭和五十年十二月吉日 旧天伯原開拓農業協同組合 組合員一同 / 126名の氏名
- ⑨現在の状況 天白山神社内で管理されている。

